

2019年度事業報告

概要

<奨学生選抜>

- 2019年9月から11月にかけて2020年度派遣奨学生の選抜試験を行い、78名の応募者の中から10名を奨学生として選抜した。今年度より応募資格を有することとなった海外高校からの応募は10名であった。

<広報>

- ホームページや SNS による情報発信だけでなく、募集要項説明会、首都圏外での留学説明会(2年目、福岡・仙台)、学校訪問、外部団体との協力を通じて基金の広報メッセージ拡散を図った。

<募金>

- 寄付額総額は予算を上回ったものの前年比では減少。卒業生及びその他の支援者からの寄付金が減少した。後者は昨年行った90周年記念祝賀会の際に受け取った寄付金がなくなったことが要因。主たる支援者には奨学生の現況を紹介するレポートを作成した。

<資金運用>

- 今期は償還を迎える債券が5件あったが、利回りが低いこと及び来期以降の支出増加に鑑み債券への再投資は一件のみ行い、償還したドル債の資金はドル建てMMFに購入にあて、円建て債の資金は現預金に預けた。

<奨学金給付>

- 21名の奨学生に対して奨学金の給付を行ったほか、選抜試験合格者の出願支援、新奨学生・在学生の支援を行った。

<その他>

- 5月にマサチューセッツ州のMount Holyoke CollegeとMOU（奨学金支給に関する覚書）を締結し、基金が推薦する学生1名に対し、大学が2万5千ドル以上の奨学金を大学が支給する取り決めをした。
- 10月にニューヨーク州のUnion CollegeとMOU（奨学金支給に関する覚書）を締結し、基金が推薦する学生1名に対し、大学が学費全額免除をする取り決めをした。
- 米国中西部の大学訪問調査を実施した。